

本市の課題(犯罪等の状況、意識調査の結果より)

○治安が悪いと思っている人の半数以上が、防犯カメラや街灯(防犯灯)の数が不足していると感じている。

(意識調査問8)

○刑法犯認知件数は、令和3年を境に増加を続け、令和6年5月末は387件となりコロナ禍前の令和元年同月末の件数を上回った。市民が被害にあうと不安を感じる、侵入盗、自転車盗などの件数が多いほか、万引きが増加している。

(犯罪等の概況3、意識調査問9)

○特殊詐欺は次々と新たな手口が発生し巧妙化している。令和5年は認知件数21件、被害総額1億円超と、市民にとって大きな被害とともに脅威である。

(犯罪等の概況4、意識調査問9)

○一定程度施錠の習慣が無い人がいる。一方、令和5年は自転車盗の約8割が無施錠で被害にあっているなど、施錠に対する意識の低さが自転車盗や侵入盗など犯罪の多発につながっている。

(犯罪等の概況3、意識調査問11)

○防犯ボランティア団体は隊員の高齢化、後継者不足、隊員の減少などの問題を抱えており存続が危ぶまれている。市民意識では効果があると思う人が多い一方、殆どの方が参加していない。

(防犯ボランティアアンケート問18、意識調査問14、16)

○刑法犯検挙人員に占める再犯者の割合は高い数値で推移している。一方、市民意識の、犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思うかで、多くの方が「わからない」、「協力したいとは思わない」と答えており、市民の理解が進んでいない。

(犯罪等の概況8、意識調査問30)

○重要犯罪の件数は減少しておらず、犯罪の被害にあい支援を必要とする被害者の方は一定数存在している。支援について市民の関心は高いものの、市の総合的対応窓口はほとんど知られていないなど、制度が認知されていない。

(犯罪等の概況9、意識調査問21、23)